第一チャクラ

生きるための基盤

第 1 チャクラは全ての「基盤」です。
尾骨から足を伝って下へエネルギーを流し、私たちと地を結びつけ、しっかりした基盤を作る役割をします。チャクラの中では一番低周波で濃密なエネルギーです。まず、生きることの基盤になる本能的な能力である、生存や成長に関わります。生きるために必要な原始的な本能である、「闘争か逃走か」のバランスにも関連します。
また、「基盤」は生存するための基本的な欲求である食事や財政的安定にも関わります。

精神的な基盤

心理学的な観点からは、精神的基盤となる安全や安心にも関わります。
それに一番大切な自分の居場所、つまり家族や住まいにも関連しています。そこがしっかりしていると、人生は寛大で、自分の必要なものは全て手に入るという感覚を持つことができます。

肉体的

第 1 チャクラは副腎と関連すると言われています。
副腎はストレスを感じた時にアドレナリンを分泌する代表的な器官です。アドレナリンはまさに「闘争か逃走か」のホルモンです。生きるために必要な原始的な本能である、敵から身を守ったり獲物を攻撃したりする感覚を引き起こします。
第 1 チャクラは直腸や肛門、尿道といった排泄に関連する器官にも対応しています。第 2 チャクラの消化や吸収を司る生殖泌尿器の働きから、第 1 チャクラの排泄までの働きは密接に関連しています。必要なものを吸収し、いらないものを排泄、そして老廃物を体にためないという仕組みは、体にとってとても大切です。
それと同じように、精神面でも必要なものを取り入れ、いらないものを手放すことと関わります。
第 1 チャクラの不調は、過去やいらないものを手放せないこととも関連します。下痢のような疾患は、物事を消化せずに排出（捨てて）しまっているかもしれません。

幼少期の環境

幼少期の環境が第 1 チャクラの基盤に影響を与えていることがあります。
幼少期に十分な愛情を得られなかった、十分なお金が無く必要なものが簡単に手に入らなかった、安心できる自分の空間やコミュニティーがなかった、引っ越しや転校が多かった、などといった、安心できない環境下で育つと、基盤が弱まっている場合があります。

安定した環境

幼少期に限らず、安定や安心、安全に関することが揺るぐようなことが起こると、第 1 チャクラは弱まりやすくなります。結婚、離婚、出産、新しい恋人、身近な人の死、引っ越しといった環境が変わることが、安定や安心を揺るがします。
生きるための基盤である仕事も重要です。その仕事が変わる転職は大きく影響を及ぼしますし、仕事がない無職の状態も基盤が緩みます。仕事にやりがいがなかったり、上司が変わったりすることも影響があります。

不安な感情

私たちは常に自分の選択で安全でいることができます。
しかし、様々な周りの出来事が、不安な気持ちを生み出し、第１チャクラを乱してしまうことがあります。仕事がいつなくなってしまうか、いつパートナーに捨てられるか、今の生活がいつ壊れてしまうか・・といった、特に自分の基盤を揺るがすような不安です。
もし自分が不適切な環境にいるなら、自分の力でそこから脱出し、不安から逃れることが大切です。
しかしそれに気づかないと、自分で自分をコントロールしている実感を得るために、アルコールや買い物、薬物と言った依存性のあるものに頼ろうとしてしまいます。

人間関係

人間関係、特に家族との関係が良くないと、第１チャクラが乱れます。
集団への帰属意識は、情緒的な安心感の基盤となるからです。そのため、家族や自分にとって大切な何かの集まりの一員という実感がもてることは、第１チャクラを安定させることにつながります。

自己責任

第１チャクラは「自分の力で生きていくことができる」と実感することが大切です。
誰かに頼って、その人がいないと生きていけない状況は、自分が地に足をつけた生活をしていない状況であり、第１チャクラを乱します。
例えば、経済的に誰かに頼っている場合、自分で生きている実感が持てなく、更にその人がいなくなったときの不安がつきまとってしまいます。

正直さ

正直さは第１チャクラの基盤に関連します。
人は誰でも不正直な行動をとることがあります。とても小さなウソやごまかし、誰も見ていないところでやるちょっとした不正、言い訳や責任逃れといった行為です。
そういった行為は他人を利用したり、自分をごまかす無責任な行為なので、「自分自身で自分の力で生きている」という感覚を弱まらせてしまいます。

第二チャクラ

生命力

第２チャクラの象徴は「生命力」です。基盤を作り上げた第１チャクラから、第２チャクラでは生きる喜び、人生は何か、といった個人の生命力に関わっていきます。それは自分の感情や欲求という形で私たちに教えてくれます。肉体的にも精神的にも、何をしたら嬉しいか、幸せかを感情を通して学び、欲求を目覚めさせてくれます。そのため、聴覚や視覚といった全ての感覚を活性化させます。

性的エネルギー

生命力はまさに性的なエネルギーともいえます。第２チャクラが肉体的に生殖器系と関連しているのと同じように、精神面でも性的な欲求や感情、性に対しての関わり方と関連しています。肉体的には、第２チャクラは生殖器にあるライディヒ細胞におけるホルモンの分泌にも関わっていると言われています。つまり性欲の発現です。

創造的エネルギー

生命力は、何かを生み出したいという創造力とも関連します。創造力は、強い欲求の表れです。自分が望んだことを実現させたい、自分に喜びをもたらしたい、という熱い衝動から生まれます。その対象音楽やアート、経験、美の追求、など様々です。そのエネルギーが世の中を劇的に変化させる発明にもつながるのです。

感情表現

第２チャクラは感情表現に関わります。感情をいいものと思わず、コントロールをしようとしたり、抑圧しようとし、「頭で」考えることを優先するクセがついていると第２チャクラのバランスが崩れている場合があります。そのような人は感情を、特に不快な感情に関して、良くないものと考えます。本来、感情それ自体に良い悪いの意味はなく、私たち自信がそう判断してしまっているのです。感情はただ、起きている出来事に私たちが集中できるようにしてくれているメッセージのようなものなのです。

欲求

第２チャクラは生命力の源である欲求に関連します。生きるために必要な自分の欲を封じてしまうと、第２チャクラのバランスが崩れます。そのような場合、全て実用主義にしか考えられなくなってしまっているかもしれません。自分がやりたいこと、楽しみたいこと、買いたいもの等に対してそんな欲張りになってはいけない、というような否定的な考えをもってしまっています。それは、自己否定や自己犠牲につながります。貧しい時代に育った人や禁欲がうやまわれる文化で育った人はこのような傾向がでる場合があります。生きていくうえで必要なものがあれば十分、それ以上は望んではいけないと自分の欲や願望を抑え込んでしまいます。また、子育てに忙しい母親も、自分の欲を押さえつけ過ぎてバランスを崩してしまう場合があります。

官能

人は官能的で性的な生き物です。第２チャクラでとても重要なテーマです。官能を否定したり抑圧しようとすることは、生きる流れをブロックしてしまうようなもので、チャクラのバランスを崩す原因になります。バランスが崩れていると、自分の官能的な部分や情熱的な部分を認められない傾向があります。自分には性的魅力がない

と考えてしまう場合もあります。もしくは、無意識のうちに自分の官能的な性質を否定していて、異性との関わりを遠ざけている場合があります。

快楽と愛情

性に関して、一時的な快楽と愛情が混同されてしまう場合があります。快楽のみに傾いてしまっているとチャクラのバランスが崩れます。性を通じて欲求が満たされる感覚は、肉体的なものと魂へのものがあります。肉体的なものは一時的な快楽でしかなく、魂へ作用するものは愛情です。肉体の快楽が終わっても、魂への影響はしばらく続くと言われています。その違いを混同して、深い部分からの満足感である愛情に欠けてしまっていると、一時的な快楽のみで満足感を埋めようと、極端な性に対する行動につながってしまいます。

依存

何かに依存してしまう傾向がある人は、第２チャクラのバランスが崩れている場合があります。これまで見てきた感情や欲、性に対するブロックがあるかもしれません。それらを抑圧していたりコントロールしようとしたりすると、結局は常に満たされていない感覚になり、それを埋めるために何かに依存します。アルコール依存、過食症、薬物依存、ギャンブル依存などがその一例です。

バランスが取れている状態

第２チャクラのバランスが取れていると、人生への情熱が生み出されます。人生を辛く堪えるものではなく、楽しむものとしてとらえます。感覚が研ぎ澄まされ、美味しいものや楽しい時間、素晴らしい芸術を楽しみ、人生を祝福し、愛情を目覚めさせてくれます。嬉しいときに喜び、悲しいときに悲しみ、感情を素直に表現できます。創造的で信頼できます。日常の些細なことでも、特別なことに変えてしまう創意工夫ができます。自分が心地良いと思うことに対して罪悪感はありません。逆に、それに依存しすぎて行き過ぎることもありません。

バランスが崩れた状態

第２チャクラは対応する元素が「水」であるように、とても移ろいやすい性質があります。第２チャクラに関わる感情も、事実色々なものに影響されやすいです。そういった移ろいやすいものがどんな方向にいっても、いい悪いと決めつけてコントロールしようとするのではなく、ただ注意を傾けることが重要です。バランスが崩れると、対応する肉体に何かしらの不調が現れます。大腸炎、過敏性腸炎、膀胱がん、前立腺炎、腰痛、性的機能障害などはその一例です。

エネルギーの不足

チャクラが閉じ、エネルギーが不足していると、自分に厳しくなりすぎます。理由なく罪悪感がある状態で、素直に楽しんだり、心地よいことを選ぶことができません。肉体的には不感症や性的不能の状態になる場合もあります。子宮体がんや子宮頸がんを発症した女性は、第２チャクラのブロックや機能障害があることがよくあるようです。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、情緒不安定になります。夢想家で嫉妬心が強くなり、人を操ろうとします。性におぼれる傾向が出てきます。人間関係を性的な側面でしか考えず、相手を性の対象としかみない傾向になります。

第三チャクラ

自己主権

第３チャクラは自己主権と関わります。
自尊心、人生の進む方向、個人の意志、自分をどう思うか、相手にどうみられているか、といったことです。また、自分の人生を思い通りに進めているという感覚、他者との関係で自分をどう見るか、にも関わります。
自己主権は、人生におけるさまざまな選択や決断、行動に影響していきます。

勇気

自己が確立すると、自分の意志がはっきりしていてそれを信じているので、反する者に対して立ち向かう勇気が生まれます。そのため、第３チャクラは戦士のチャクラとも言われます。
立ち向かうというのは、戦うこともあれば、距離を置いたり、怒るという様々な側面があります。

他人との関係

自分の価値を認めることができると、他人の自己も自分と同じように尊重できるようになります。
そして、協調していきていくこと、寛大さ、平和をもたらします。また、相手との関係に一定の距離を作ることができます。自分の主張を強くしてくる人に対して、中々断れなくて結局自分が損してしまうようなことがあるとおもいます。自己主権が確立していると、自分にとって何を最優先にしないといけないのかを判断できます。そのため、相手に流されてしまうことがないように、一定の距離を作ることができます。

内なる炎

第３チャクラは「火」の元素であるように、内なる炎といえる部分です。第３チャクラと対応している臓器である消化器系は、食べ物を燃焼させていく炎のようなイメージです。その炎は、きちんと使われないと臓器を燃やしてしまいます。そのため、第３チャクラのバランスの崩れは、消化器系の臓器の潰瘍とも関連があります。
被害者意識を手放す
被害者意識は自己主権が確立してない人に多い考え方です。本来、全ては自分の選択で人生が築き上げられています。被害者意識が強いと、上手くいかないことは周りの環境や人のせいにして、自分に責任があると思いません。例えば被害者意識がある人は、仕事が嫌で仕方ないとき、もっと上司がこうだったら、会社がこうだったらと考えます。実際はその環境を選んでいる自分の選択によってその状況ができていて、自分で変化を起こせることに気づいていません。

怒りと攻撃性

自分の自己主権が確立していると、自分は他人によって脅かせることはないとを知っているので他人を尊重できます。しかし、バランスが崩れていると他人を恐れるようになり、攻撃的になります。また、他人の自己を尊重することができません。そのため、怒りや攻撃性は、自分の人生のコントロールする力にも比例してきます。

恐れ

誰かが自分より力があると認めてしまうと、自己主権の第 3 チャクラは閉じてしまいます。
例えば、怖い上司、虐待する親、攻撃的な隣人などです。職場で怖い上司に怒られると思ったとき、胃が締め付けられる経験は誰もがあるかと思います。ちょうど太陽神経叢にあたる第 3 チャクラが閉じてしまうためです。このようなチャクラを閉ざしてしまうような人と一緒にいて、常に恐れを感じていると、パワーがなくなります。そして他人との関係において、共依存と依存の問題を引き起こします。自分を差し置いて他人を喜ばせようとしてしまったり、その人がいないと生きていけない、といったような気持ちになります。

支配と服従の葛藤

自己主権が確立していないと、他人を支配しようと考え始めます。もしくは、全く逆に臆病で従順的になってしまいます。どちらにせよ、自分の人生は自分で変えることができないという無力感が根底にあります。そういったバランスの乱れは、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因となります。疲労や体力低下にも繋がります。

過去への執着と後悔

第 3 チャクラは、過去への執着や後悔の気持ちが反映されることがあると言われています。そのような気持ちは自分で自己をコントロールしているという実感が薄れていると表れやすいです。そこから、個人の力の低下がしばしば見られる糖尿病ともかかわりがあると言われています。

第 3 チャクラと関連する症状

バランスが取れている状態

第 3 チャクラのバランスが取れていると、自己主権が確立しています。自分には価値があり、自信を持つことができ、自分の望みを知り、それに集中し自分の力で向かっていきます。そして、思い通りにいくことが分かっています。すべては自分の責任で、他人のせいにしません。

バランスが崩れた状態

第 3 チャクラのバランスが崩れていると、感情面では共依存、うつ、依存症、怒りが現れます。それらは対応する肉体に何かしらの不調が現れます。消化器系の不調、胃潰瘍、過敏性腸症候群、胆のうの疾患、お腹わまりの脂肪、糖尿病、アレルギー、疲労といった症状が当てはまります。

エネルギーの不足

チャクラが閉じ、エネルギーが不足していると、自己主権が弱いので、受け身で無気力で無関心です。自分で人生をコントロールできないと思っているので、他人まかせで被害者意識があり、他人の意見が気になりすぎてしまいます。ひとりになりたくないと思い、いつも不安です。自分の人生を自分でコントロールできるという自信が無いので、どうせ誰かに利用される、世の中は不幸ばかりだ、といったように考えます。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、自分の関心事だけが一番になってしまいます。そのため、頑固で独断的、無神経、排他的、暴虐的、ワーカホリックな部分が現れます。こういった側面の一部は、ある意味競争社会では評価されることがあります。カリスマ性があり、やり手であると思われるので、第 3 チャクラが異常に開いている人は高い地位につく人もいます。また、他人を支配しようとしたり、操ろうとしたりする傾向もあります。

第四チャクラ

心

第４チャクラの象徴は心です。第３チャクラでは「自己」がテーマでしたが、そこから他人への愛へ移行します。心とは、愛情や思いやり、友情、温かさ、共感などが含まれます。他者との関係、いかに愛をもって他者と接することができるかが大切になります。自分を愛するのと同じように相手を愛し、自分を大切にするのと同じように相手を大切にします。

愛を受け取り与える

第４チャクラのバランスが取れていると、自分の存在が価値あるものだと理解できます。すべての人から愛される価値があると感じ、自分自身も愛します。また、同時に他人に対しても無条件に愛を与えることができます。愛には受け取ることと与えることのバランスが大切です。第１チャクラの家族（集団）への愛、第２チャクラの性的な愛とは異なり、第４チャクラでの愛は何があっても変わらない、安らかで空気のようなものです。

シンクロニシティー

シンクロニシティーは、考えていたことと現実が一緒になることです。第４チャクラのバランスが取れていると、そのようなことがよく起こります。第４チャクラが開いていると愛を持った人を感じた時、人は自然に引き寄せられ、そのエネルギーに同調します。

許し

第４チャクラは許しと関わります。誰にでも怒りや恐れなどを感じ、愛のない感情を抱いてしまうことがあります。しかし、どんな人に対しても憐れみと許しを与えることで、そういった感情を手放すことができます。赤ちゃんが怒ったり泣いている時も、親は愛情を与えられます。同じように、攻撃的な誰かに怒りを感じそうでも、大きな愛で許してあげることが大切です。

孤独と親密さ

親密な人間関係を避けることは第４チャクラを閉ざします。そういった人は、人との関わりで自分のネガティブな側面を学ぶことを避けています。第４チャクラで大切な、無条件の愛は、ネガティブな面も含めて自分のすべてを愛することが必要です。また、傷つくことから自分を守るために、心の扉を閉ざして孤独になることがあります。

排他主義と優越感を手放す

第４チャクラのバランスが崩れている要因の一つに、排他主義的な考え方があります。人と線引きをし、優越感をもつ、といったことです。そのように自分を周りと切り離すことは、結局は自分自身をどう見ているかを示します。本当に自分は愛されるべき存在なのか？という恐れが根底にあります。他人を下に見ることで、自分の低い自尊心を上げようとしているのです。その行為は、結局は全てがつながっている宇宙と自分を切り離すことになってしまいます。

自分本位な愛情

愛とは本来、母親が子供を愛するように無条件なものです。ありのままを受け入れることです。しかし自分が気づかなくても、多くの人が自分本位な愛情を本当の愛と混同して苦しんでいます。自分に足りない何かを埋め合わせてくれるために、もしくは自分の気持ちを満たすために、相手をコントロールしたり批判することがあります。それは本当の愛からくる行動ではありません。

悲嘆と抑うつ

第４チャクラは胸腺に対応します。その胸腺は免疫調整の重要な役割をしています。免疫力を押さえてしまう大きな要因に悲嘆と抑うつの感情があると多くの科学者が認めています。例えばガン患者の多くが、ガンが発生する前に、親しい人を亡くしたなどの抑うつの心理状態を経験しているそうです。免疫力が低下すると、ウイルス性の疾患や慢性関節リウマチ、副腎不全、多発性硬化症といった様々な疾患を引き起こします。

自己愛

第４チャクラでは、自分への愛は特に大事な要素であると言われます。現代、無意識にもその自己愛に欠けている人が多いと言われています。否定的な自己イメージは第４チャクラをブロックし、胸腺に影響を与えます。つまり、自己免疫力の低下につながります。社会的に認められない少数派のグループに属しているような人は、しばしば自己に対して否定的になり、それが免疫の疾患を発生させます。

バランスが取れている状態

第４チャクラのバランスが取れていると、世の中との関係を対立するのもではなく、自分が世の中の一部として考えます。あらゆるものとのつながりを感じられ、自分にも人にも信頼感を持てるようになります。自分の人に対する影響を理解し、全てにおいて寛大で愛のある接し方をします。共感力があり、他人の役に立ちたいと思います。何よりも無条件に愛を与えることができます。

バランスが崩れた状態

第４チャクラのバランスが崩れていると、自分は愛を受ける価値がないと思ってしまう傾向が出てきます。時に自己愛の欠如は第４チャクラのバランスを崩す大きな原因となっているようです。現代の多くの病気が、第４チャクラが原因になって発症すると考えられています。第４チャクラは循環器系や肺、気管支にも影響を与えています。そのため冠動脈疾患、心筋梗塞、脳卒中なども関連します。

エネルギーの不足

チャクラが閉じエネルギーが不足していると、拒絶を恐れ、他人との親密な関わりを避けようとし、極端に自分の感情を抑え込みます。批判的で、疑い深く、慎重になります。そのためまわりも近づきにくいと感じるようになり、更に孤独になっていきます。愛しすぎてしまったり、自分が愛を受けるに値しないと思うようになります。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、周りの人に敏感になりすぎてしまう状態になります。つまり共感しすぎてしまいます。相手が幸せな人だったら、自分も幸せに感じるのでいいのですが、怒りや恐れといったマイナスのエネルギーを持つ場合、共感しすぎて疲れてしまいます。また、独占的で、条件付きの愛に偏ります。また、親の過保護で偏った愛情は、子供の自尊心の発達に悪影響を与え、チャクラのバランスを崩します。そこから気管支が刺激され、呼吸困難や喘息といった気管支系の疾患になる場合があります。

第五チャクラ

表現

第５チャクラは表現を象徴します。この表現というのは、自分の魂からの表現です。自分がどんな人で、自分の人生で何をするのか、自分の真実を表現することを司ります。そのため、他人に流されることはありません。自分の中の真実だけに耳を傾け、正しい方向に進んでいくことができます。魂からの表現は、驚くほどのパワーをもち、人に影響を与えます。そして、自分の望むように歩む手助けをしてくれます。

コミュニケーション

第５チャクラは、自分の真実を表現することと同時に、相手の話にも耳を傾けて、深い理解をする、双方のコミュニケーションでもあります。そこから、交渉や議論、教えること、学ぶことに関わります。魂から発せられる創造的な双方のコミュニケーションは、自分の知らない世界を教えてくれます。そのため、第５チャクラは発展や進化につながるチャクラでもあります。

他人とつながる

第５チャクラのバランスがとれている時のコミュニケーションは、お互いが繋がっています。相手の話す真実に対して、深く共感をすることができます。お互いがつながる方法は、言葉を使った会話の場合もあれば、触れることや、音楽や歌や絵画といった芸術作品を通じてつながる場合もあります。

思考や感情の一致

第５チャクラのバランスがとれていると、自然と思考や感情が他の人と一致し、偶然のような出来事が重なることがあります。例えば、今思っていたことを隣の人がやってくれたり、探していたものを急に誰かが見つけてくれたりすることです。これは自分の考えが明確なほど、起こりやすい現象です。

透聴力

第５チャクラは、自分の内なる声に対する透聴力と関係しています。心の中では、沢山の雑音があります。自分のエゴや浅はかな考え、内容のないニュースに対する感情・・・きりがありません。それとは別に、もっと深い部分にある、自分の魂を導いてくれ、方向性を明確にしてくれるような内なる声があります。第５チャクラが開いていると、それに対する透聴力がもたらされます。

直観力

直観は、第５チャクラのバランスが取れているときの表現に不可欠なものです。私たちは直観力を鍛える必要があります。鍛えるためには、自分の直観力を信じ、直観で沸き上がったことを実際に実行します。そうすることで、より直観が舞い降りるようになっていきます。また、他人にどう思われるか気にすることをやめたり、創造的なものづくりをしたりすることも直観力を高めます。

優柔不断と本心

優柔不断の人は、相手からどう思われるかが気になり、相手に合わせて異なる反応をします。そこには自分の真の表現は無いので第５チャクラを乱す要因となります。他人に納得してもらうための表現ではなく、自分が納得する表現をすることが大切です。

集団的思考に影響されない

集団的思考は、職場や地域など色々なところに漂っています。私たちは、人が考えていることに同調することができます。そのため、無意識にしていると、集団的思考が私たちの考えを支配してしまって、良くない方向へ向かわせてしまうことがあります。
他人の考えや習慣ではなく、自分の経験や考えに基づいた判断ができることが重要です。

愛のない表現から距離を置く

世の中には、愛が欠如しているようなことが沢山あります。人の不幸をネタにする週刊誌やワイドショー、気分を落ち込ませるような映画や物語などです。こういったものにエネルギーを同調させてしまうと、私たちは世の中を悪く言ったり、人の悪口を言ったりしはじめます。実際に声に出さなくとも、ネガティブな思考に侵されます。そのことは第５チャクラのバランスを崩してしまいます。もっと自分を高めることにエネルギーの焦点を合わせ、チャクラを開かせることが重要です。

抑圧された表現

他人を怒らせることを恐れて、自分の感情を抑えたり、他人と一線を引くという形で表現を抑圧する場合があります。表現が抑圧されると、内側に怒りが生まれます。そして他人に対して攻撃的になったり、若しくは自分に対して破滅的になります。溜めていたことが一気に爆発してしまうこともあります。このような場合は肉体的にも、喉に関する症状が現れる場合があります。

バランスが取れている状態

第５チャクラのバランスが取れていると、正直なコミュニケーションができます。自分の魂にと調和したものだけを発信します。そのため、相手に合わせたコミュニケーションは取りません。言葉の影響力を知っているので、人に元気を与え、平和を呼び込むような真のメッセージを伝えます。また、芸術的な直観力もあります。

バランスが崩れた状態

第５チャクラのバランスが崩れていると、コミュニケーションの障害が現れます。
喉の痛み、リンパ熱、肩の凝り、咽頭炎、甲状腺炎、副甲状腺腫瘍、咽頭がんといった症状も当てはまります。

エネルギーの不足

チャクラが閉じ、エネルギーが不足していると、自己表現が上手くできません。それは他人と本気でコミュニケーションを取ろうとする意志がなくなります。他人に影響されやすいので、頼りなく、考えが矛盾しているように感じます。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、口数が多くなりすぎます。それも人のうわさ話やゴシップなど、上辺だけの会話だけを沢山話す傾向があります。また、独断的で傲慢な性質が出てきます。

第六チャクラ

ビジョン

第６チャクラは「ビジョン」を象徴します。
つまり、人生を正確に見る能力です。自分や世の中を偏見やフィルターなしに見ることができます。
物質的な外見、物事の外側に惑わされず、内側の本質を理解することができます。そのため、冷静に分析したり、見分けたり、知覚することも司ります。
また、ビジョンに大切な、想像し将来の夢を見ることにも関わります。魂からのメッセージと言われる夢も第６チャクラと関わります。

記憶

第６チャクラは記憶に関連します。記憶は、学ぶ能力や記憶力、過去を正確に振り返る能力にも発展します。

想像力

第６チャクラは想像力に関わります。
周りで起こることはすべて自分が想像したことだ、とか、想像できることは全て実現できることだ、などと言われるほど、想像力にはパワーがあります。
第６チャクラのバランスが取れていると、ポジティブな未来を心に描き、それを現実に作り上げることができます。困難に直面しても、それに隠され本当の意味を理解し、解決するために想像力を働かせることができます。

正確な判断

バランスの取れた第６チャクラは正確な判断を促します。
第６チャクラがきちんと作用すると、左脳と右脳のバランスが取れているので、論理的な思考と直観のバランスがとれていることになります。そうすると物事を冷静に、かつ直観的に見れるので、正確な判断ができるようになります。知性をもって今の状況を冷静に分析し、想像によって未来を組み立てていくことができます。

透視力

第６チャクラは透視力にも関連します。
とくに第６チャクラが発達している人は、透視が可能になると言われています。特別な人だけがもつ能力ではなく、本来どの人にも備わっている能力と言われています。透視力は、偏見や主観性のフィルターを取り除いていくことで磨かれていきます。常に物事の本質を見ようとすることにより培われていきます。

知性に頼りすぎない

考え方が知性に頼りすぎてしまっていると、第６チャクラを乱します。
それはつまり右脳の働きを無視し、左脳に偏り過ぎてしまっているので、考え方が支配的で完璧主義的になってしまいます。感情的な部分は無視され、目に見える事実と論理的な思考に支配されてしまうことになります。

本来の自己イメージを取り戻す

本来のアイデンティティーとは違った自分を自己イメージとしてしまっているとき、第 6 チャクラは乱れています。
本来、自己イメージは自分のことをどう思い、世の中に対してどう表現するかを支配しているとても大切なものです。しかし自分の本当のアイデンティティーをきちんと認識することは難しい場合が多々あります。
例えば、親の期待や考えによって、幼いころから自分はこうでないといけないという考えが埋め込まれてしまうことがあります。また、男はこうあるべきだ、女はこうあるべきだ、などとという社会的・文化的な概念に無意識に影響されて、本来の自己イメージを認識できていないかもしれません。
正確な自己イメージの認識は、人生の方向性を明確にしてくれます。自分は何が好きなのか、どんな才能に長けているのか、本当の自分になるために向き合うことが必要です。

第 6 チャクラと関連する症状

バランスが取れている状態

第 6 チャクラのバランスが取れていると、世の中と自分の真実を歪みなく見ることができます。
人生を創造的でポジティブにとらえ、様々なものへの知識欲があります。理性と想像力のバランスが取れ、人生を良い方向に導きます。美や芸術に心を開き魂に栄養を与えることができます。集中力が研ぎ澄まされ、自分の進む道に集中します。物事の本質を見れるので、上辺の情報に惑わされません。直観力に長け、カリスマ性があります。物質的なものに執着しません。

バランスが崩れた状態

第 6 チャクラのバランスが崩れていると、被害妄想や物忘れ、集中力低下の可能性があります。
知性に偏り過ぎて、非物質的なものを否定し、物質的な世界だけに依存してしまう傾向が出てきます。
完璧すぎて、本当の自分を表現することよりも、外見を重視する傾向があります。また、対応する肉体に何かしらの不調が現れます。
第6チャクラは様々な器官に影響を与える下垂体に対応していることから､考えられる疾患も様々ですが､頭痛、眼精疲労、視力低下、白内障、副鼻腔の疾患といった症状などが一例です。
第 6 チャクラに関する疾患は、魂が成長するのにとても重要にも関わらず、私たちが直面しようとしない問題に関連して発生するとも言われています。

エネルギーの不足

チャクラが閉じ、エネルギーが不足していると、成功を恐れ、目標設定が低い傾向があります。
無規律で分裂気質です。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、理論的、独断的、傲慢になりすぎてしまいます。
権威主義者の傾向が出てきます。

第七チャクラ

霊性

第７チャクラは最も高次なスピリチュアルとつながる部分です。
全てのものがスピリチュアルなものであると認識することを助けます。私たちは本来は一つであり、繋がっていることを思い出させてくれる場所です。

信頼

第７チャクラが開いてバランスが取れていると、全てにおいて絶対的な信頼を持つことができます。
健康に対する心配や不安がなくなります。自分が頑張らないとどうなってしまうかわからないといった、未来に対する心配がなくなり、全てはうまくいくと思えるようになります。
宇宙と一体化するような感覚で、進んでいく道をゆだねることができます。

過去世とのつながり

私たちの魂は、様々な人生をすでに送ってきていると考えられています。
私たちの意識には過去世の記憶がないですが、魂には過去世の記憶があります。そして、自分の魂の課題をクリアするために、過去世で関わった人に今世でも出会うことがあります。
まれに過去世を見れたり、覚えているという人がいますが、そういった能力がなくても、過去世を感じることができます。
例えば、初めて会った人なのに何かを感じたりするような直観や、はじめて行った場所なのに、とても懐かしい気持ちになる、という感情です。

より視野の広い道

第７チャクラが開くと、人生の目的を自分の個人的な目標以上のものに見出そうとし、高次の目的を達成しようとします。
全ての人に対しての善や幸せを探求するようになります。永続的で必要な影響を地球に残したいと思います。

自己中心主義を手放す

ここでいう自己中心主義とは、自分が何をするかに焦点を当てて、自分は何者か？というスピリチュアルな部分には目を向けません。
そのような場合は第７チャクラを閉ざしてしまいます。このような人は「自分の運命は”自分”が切り開く」という信念があります。宇宙から導かれる流れを信頼せず、自己決断を重要視します。自分が賢明な努力することで、物質的な富や名誉が必ず手に入ると考えます。
こういった考え方をしてしまうと、物質的な成功によって、心理的な幸福が左右されてしまいます。
その場合、失敗した時や定年後など、物質的な成功が満たされない状況になった時、自分の人生はこんなものかと、とても悲観的になってしまうことがあります。

第 7 チャクラと関連する症状

バランスが取れている状態

第 7 チャクラは、他の 6 つのチャクラが開くと自然に開いてきます。
全てを信頼でき、内面が安らかで、超越的です。優しく思いやりがあるので、他人には魅力的な人柄にうつります。肉体的な部分を観察すると、第 7 チャクラが開いている人は、松果体と左右の大脳半球の間にエネルギーの極性が見られるそうです。

バランスが崩れた状態

バランスが崩れていると書きましたが、本来第 7 チャクラのバランスが崩れることはなく、人によりチャクラがどれくらい開いているかが違うようです。
肉体に出る不調は、筋萎縮性側索硬化症やエイズ、アルツハイマー、てんかん、汚染物質への過敏症といったものがあります。エイズは第 7 チャクラで例を挙げていますが、第 4 チャクラや第 2 チャクラとも複雑に関わります。

エネルギーの不足

チャクラが閉じ、エネルギーが不足していると、自分の居場所が無いように感じ、決断ができません。
いつも疲れています。

エネルギーの過剰

逆にエネルギーが過剰すぎると、病的で躁鬱気質の場合があります。
フラストレーションが溜まっていて、実力を出し切っていないという感覚があります。
混乱した性表現がある場合があります。